

こまざわ 経済 通信

発行
駒澤大学経済学部
同窓会
〒154-8525
東京都世田谷区駒沢
1-23-1



学部長挨拶

「経済学部70周年を迎えて」

岩波 文孝(教授、企業管理論/経営管理論担当、2002年着任)

日頃より経済学部同窓会の皆さまには、経済学部の教学に多大なご支援をいただき、心より感謝申し上げます。

駒澤大学経済学部は、1949年の新制大学移行にともなう商経学部設置から70周年を迎えます。1966年には、経済学部名称変更し、経済学科と商学科を、2007年には現代応用経済学科を開設しました。2018年には、現代応用経済学科10周年記念事業として、現代応用経済学科ラボラトリを開設しました。

2019年度には、経済学部70周年記念事業を企画しております。すでに終了している企画も含めて、ご紹介いたします。

70周年記念事業のメイン企画として、シンポジウム「日本経済と金融の将来像」を11月23日に開催いたします。シンポジウムでは、経済学部井上智洋准教授による報告「日本経済と金融における人工知能(AI)の活用」をはじめ、「フィンテックの現状と将来」(京都大学教授 岩下直行氏)、「楽天の考えるキャッシュレスのカタチ」(楽天ペイメント社長 中村晃一氏)、「ビットコイン・バルブの崩壊とデジタル通過の可能性」(麗澤大学教授 中島真志氏)の多様な報告とディスカッションが予定されています。

他にも70周年記念事業と学会や自治体等とのタイアップ企画がございます。本記念事業と協同組合学会との共催により、若森みどり氏(大阪市立大学教授)を招き、特別記念講演「カール・ポランニーと社会連帯経済」が5月に開催されました。現代応用経済学科ラボラトリと世田谷区との共催シンポジウム「世田谷地域の産業創造とコミュニティビジネス」が6月に開催されました。

10月以降では、70周年記念事業と経済理論学会ラウトレッジ国際賞受賞記念とのタイアップ企画として、Dr. Diane Elson氏 (Professor of sociology, the University of Essex, UK) による記念講演「所得分配におけるジェンダーと階級の交差 (Intersections of Gender and Class in the Distribution of Income)」の開催、および、学生・大学院生・一般・本学教職員対象の国際交流セミナー「フェミニズムと経済」の開催も企画されています。

日中韓国際シンポジウム「変動期東アジアの政治経済学」を11月に開催いたします。Yun Jie氏(中国社会科学院政治学研究所研究員)とSeongjin Jeong氏(Gyeongsang National University教授)をお招きし、発表とディスカッションが予定されています。

12月には、ラボラトリによるシンポジウム「アントレプレナー交流会・総会」が企画されています。本企画は、アントレプレナー交流拠点の代表者7名によるディスカッションやビジネスアイデアコンテストが催されます。なお、本ラボラトリ企画は、2019年度経済産業省中小企業庁「創業支援等事業者補助金(創業機運醸成事業)」に採択された創業に関する普及啓発事業(創業機運醸成事業)の一環でもあります。

同窓生の皆さまにも是非ともご関心のある企画にご参加いただければ幸甚に存じます。同窓生の皆さまと意見交換ができる多くの機会を作り、同窓生の皆さまからのご意見を伺い、経済学部のさらなる発展に活かしていきたいと考えています。今後ともお力添えをいただければ幸いです。

「第5回学生シンポジウム」にご参加を!!

本年度も学生シンポジウムを開催いたします。現役生の日頃の研究成果をご覧ください。

2019年11月10日(日)12時30分～ 開会式

開会式は、駒沢キャンパス3号館(種月館)307にて行います

※当日の分科会情報などは、経済学部ホームページに掲載予定です。

経済学部主催 経済学部創立70周年事業のお知らせ

駒澤大学経済学部では創立70周年を祝し、下記のイベントを実施いたします。奮ってご参加ください。
なお、イベント内容に変更が生じることもございますので、参加する前に、経済学部ホームページや関連するホームページをご確認いただけますと幸いです。

■ 2019年10月5日(土)14時～17時30分 駒澤大学深沢キャンパス120周年アカデミーホール
駒澤大学経済学部現代応用経済学科ラボラトリ主催2019年度第2回シンポジウム「商店街×創業@世田谷」
参加費:無料

※詳細は、ラボのホームページ(<https://www.komadaicommunitylab.com/>)をご確認ください。

■ 2019年10月19日(土)17時～18時 駒澤大学種月館(3号館)2階207教室

記念講演会"Intersections of Gender and Class in the Distribution of Income"

講師:Diane Elson (Essex University)※第5回(2018年度)経済理論学会ラウトレッジ国際賞受賞

※経済理論学会とのタイアップ企画

参加費:経済学部現役生・卒業生は無料

※詳細は、経済理論学会第67回大会ホームページ(<https://jspe2019.jimdofree.com/>)をご確認ください。

■ 2019年10月20日(日)10時～11時50分 駒澤大学種月館(3号館)2階202教室

国際交流セミナー「フェミニズムと経済」(Diane Elson氏と若手研究者との研究交流会)

※経済理論学会とのタイアップ企画

司会:姉齒暁(駒澤大学経済学部教授)

参加費:経済学部現役生・卒業生は無料

■ 2019年11月10日(日)13時～17時 駒澤大学種月館(3号館)3-307教場

日中韓国際シンポジウム「変動期東アジアの政治経済学」

講師:負杰(中国社会科学院政治学研究所研究員)、

Seongjin Jeong(Gyeongsang National University 教授)

参加費:無料

※当日は午前中から第5回学生シンポジウムも開催されます。詳細は経済学部ホームページをご覧ください。

■ 2019年11月23日(土)13時～17時 駒澤大学記念講堂

駒澤大学経済学部創立70周年記念シンポジウム「日本経済と金融の将来像」

司会:代田純(駒澤大学経済学部教授)

参加費:無料 ※事前に経済学部ホームページより事前参加登録を行ってください。

■ 2019年12月19日(木)17時～21時 駒澤大学種月館(3号館)

駒澤大学経済学部現代応用経済学科ラボラトリ主催2019年度第3回シンポジウム「アントレプレナー交流会・総会」(ビジネスアイデアコンテストなど)

参加費:無料

※詳細は、ラボのホームページ(<https://www.komadaicommunitylab.com/>)をご確認ください。

経済学部同窓会主催 「経済学部創立70周年を祝う会」のご案内

駒澤大学経済学部は、昭和24年(1949年)に商経学部として設立され、その後昭和41年に経済学部へ改組され、本年創立70周年を迎えることになりました。

専任教員7名、学生10数人で出発した学部は、現在、専任教員50名、学生3,400名の学部へと成長し、社会の各方面で活躍する卒業生を輩出しております。

経済学部同窓会は、70周年の節目にあたり、全国の卒業生、経済学部教員、名誉教授が一堂に会して親睦を深め、70年の歩みを振り返り、経済学部と同窓会の更なる発展をはかる機会を設けることに致しました。皆さま、お誘いあわせのうえ、ご参加くださいますよう、ご案内を申し上げます。

期日：2019年12月1日(日)

時間：14:00～17:00

会場：駒澤大学深沢キャンパス(世田谷区深沢6-8-18)

東急田園都市線「駒沢大学」駅下車。徒歩約15分。※駒沢キャンパスより徒歩5分

【第1部】記念式典と講演、アカデミーホール

記念講演：瀬戸岡 紘(駒澤大学名誉教授)

演題「1919年から1929年へ、さらに1939年への道

…もしや いま あの道をふたたび」

<講演者紹介>

1945年 東京生まれ、

1975年 早稲田大学大学院商学研究科単位取得

1977年 駒澤大学経済学部専任講師、助教授を経て教授、「アメリカ経済論」を担当

2016年 定年退職、名誉教授

主な著書 『アメリカ 理念と現実』時潮社、2005年

【第2部】懇親パーティー、洋館ホール、参加費5,000円(当日払い)

【参加申し込み方法】

下記の4点を、メール、FAX、電話、ハガキのいずれかで御連絡ください。

①氏名 ②卒業年 ③住所 ④電話番号・Eメールアドレス ⑤懇親パーティーの出欠

申し込み締切り：10月31日(木)

・メール(担当：石塚 武) ishizuka@sciseed.jp

・FAX(担当：小谷野浩治)03-3402-0408

・電話(担当：北澤文彦)090-2525-1810

・ハガキ(宛先)：〒154-8525 世田谷区駒沢1-23-1 駒澤大学経済学部同窓会 中島隆 宛

【出欠回答用のハガキを同封しております】

在外研究こぼれ話



リーズ大学図書館の1つ

「イギリス・リーズ滞在記」

経済学部教授 吉田 真 広

2018年4月から1年間、イギリスのリーズ大学でブレジット(イギリスのEU離脱)に関して研究する機会を得ました。同大学は駒澤大学の約2倍の学生数、6つの図書館、歴史の古い病院なども有する大きな大学です。リサーチフェローとして滞在するための手助けをしてくれた同大学の

先生、研究室で同室だった方、スタッフも含め、大変親切にいただき、論文を書き上げることができました。今も渦中にあるブレジット問題については一般の人々の関心も高く、EU側こそリスクが大きいことを主張したり、都市ごとの影響の違いを指摘するなど、興味深い意見も聞くことができました。

リーズ市では賃貸アパートに住みました。7月の卒業式の頃に多くの賃貸物件が出るようですが、渡英した3月末はまだ多くはありませんでした。それでも、1階に生協が入っており、大きな野外および屋内マーケットが近くにあるアパートを運良く見つけることができました。研究以外にイギリスでやろうと思っていたことの1つは、美味しいワインが飲める馴染みのパブをつくることでしたが、たまたまアパートの隣にワイン知識が豊富なスタッフがいる店があり、滞在中は足繁く通いました。食事メニューに特徴のあるパブも多いので、イギリスに滞在される方にはパブ巡りがお勧めです。



アパート近くの築約200年の屋内マーケット



リーズ大学内のパブの1つ

リーズはヨークシャー地域にあって地ビールも多く、日本ではあまり飲まなかったビールの美味しさもパブで教えてもらいました。同市はサハリン島の最北端と同程度の緯度に位置しますが、冬でも比較的暖かいいためか、天気が良ければ午前中から外でビールを飲む人々も見かけます。なお、リーズ大学の食堂の地下にも趣向の異なるパブが2つあり、学生たちは10種類程度のビールをいつでも飲むことができます(ワインなど他のアルコール飲料も豊富)。大学のパブにはビリヤード台やスロットマシンも設置されていましたが、国柄の違いでしょうか。

最後に、失敗の話。イギリスの賃貸契約では入居時に部屋状況を確認するインベントリー・チェックを行うのですが、その際、細部まで写真を撮っておくべきだったということです。私が退去時に求められた清掃費は、一般の清掃費だけでなく、入居前から切れていた電球の交換費、破損していた機器の修理代、元々あったシミ等の清掃費も込みの金額でした。破損箇所や電球については、チェック時に写真を撮っていたため請求を撤回させましたが、シミ等については撮っていなかったため、訂正させることができませんでした。その他、郵便物や宅配荷物の誤配や遅延も経験し、対応に苦労しました。イギリスでは全産業中のサービス産業の割合が高く充実したサービスも多いのですが、業者依存では解決しないことが割と多く、日本同様の質は期待すべきではないことを学んだ次第です。



お世話になったギャリー先生とパブにて

研究室訪問シリーズ



山中 達也
(専任講師、新興国経済論
a・b担当、2018年着任)

経済学部同窓会の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。昨年の4月に着任し、今年度より専門科目として新興国経済論a・bを担当しております。

夏休みに行われたオープンキャンパスでは、「新興国チュニジアの挑戦:オリーブで目指す経済復興」というテーマで模擬講義をさせていただきました。猛暑のなか、大変多くの方々にご来場くださり、普段の講義以上に緊張いたしました。私の第2の故郷チュニジアの特産品であるオリーブオイル(スペインに次いで世界第2位の輸出量、2017/2018)を通じて、1万km離れた国の農産物および農家の人々と日本の食卓を繋ぐグローバル経済について考察いたしました。

また今年から共に学び始めたゼミの2年生が、「Quiz そうだったのか新興国 Special Edition」というオリジナル企画を立ち上げ、大人気のタピオカやチョコレートの原材料生産地が抱える現状と課題について発表してくれました。本企画において担当教員である私から具体的な指示を出すことはありませんでしたが、学生がキャッサバやカカオの作り手の置かれている状況を丹念に調べ、「自分だったら…」と想像力を働かせて議論し、資料を準備した姿が垣間見えました。

演習や講義において大切にしていることは、広く多様で目まぐるしく変化する世界への当事者意識です。例えば、先ほど述べたチュニジアは、「アラブの春」の唯一の成功例として語られることがあります。実際には同国は、深刻な若年層の失業や地域格差の拡大といった経済的苦境に陥っていますが、革命後、改めて農業分野に着目し、日本の協力も得ながら持続的な成長を目指しています。教壇の上で私が語る際は、北アフリカの小さな国の植物をめぐるエピソードの一つに過ぎません。しかし現実として、国内外の様々な人々が同産業に携わり、適切な収益を得て産業を育成することで現地の若者の雇用を改善しようとしています。若者が未来への希望を失い、過激な思想に感化されるような経済的・社会的状況を打破することが、中東・北アフリカにおける民主化運動の重要な目的でした。したがって日本に住み、本学部で学ぶ皆さんには、まず「消費者として日々それに関わり、世界と繋がっている」という感覚を共有してもらい、次に問題解決のためには何が必要か、時間をかけてじっくりと考えてほしいと思います。

アダム・スミスが『道徳感情論』で述べた「注意深い観察者」「内なる公平な裁判官」を胸に抱き、世界で生起する出来事に「シンパシー」を持つことが経済学を学ぶ第一歩であると感じています。学生と共に成長できるよう初心を忘れず研究と教育に尽力して参ります。今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。



地中海を臨むシティ・ブ・サイド(首都チュニス郊外)のカフェ、筆者撮影。



筆者が働いていた国立チュニス・アル・マナール大学付属ブルギバ現代語学院



クサル・ギレン(サハラ砂漠の入り口)にてラクダの上から撮影。

ゼ ミ 紹 介
浅 田 ゼ ミ

柳 澤 健 斗(経済学科3年)

浅田ゼミは、現在4年生が13人、3年生は15人、2年生が16人で構成されています。主な活動内容は、グループごとに経済史の歴史についての資料を基にして、パワーポイントやWordを使った資料の作成、そして発表&討論をすることです。発表&討論では、他の班の発表に対する簡単な事実確認や質問、その質問に対する返答していくというのが基本的な活動です。3年生のゼミでは、今年度はC・A・ベイラー『近代世界の誕生』(平田雅博ほか訳、名古屋大学出版会、2018年)を扱いました。4年生は、卒業論文とともに就職活動に励んでいます。

学校の授業以外にも、山中湖や軽井沢、伊豆など年ごとに異なる場所で行う夏合宿、深沢キャンパスで行う卒論発表、全学年が同じ場で語り合う事の出来る懇親会など様々なイベントがあります。年によっては学生シンポジウム、ゼミ対抗のスポーツ大会などへの参加もします。

夏合宿については、1泊2日で、1日目に卒論の中間発表、花火、BBQ、宴会など、2日目は、基本的に観光となっていて、その土地の有名どころを回ったりします。主に3年生が企画しています。

卒業生の進路先は、日昌、にんべん、大和リビング、岡村製作所、常陽銀行、東京信用銀行、J R東日本、J A北つくば、東京ケーブルネットワーク、ベネッセスタイルケアほか、公務員、高校教員など様々な企業、職種に就くほか、大学院に進学する人もいます。

この浅田ゼミは、1つのテーマについてグループでまとめ、発表することによって、資料をまとめる、人の前で発表するという能力を磨くことができます。また、ゼミを通じて充実した大学生活を送れると思います。



経済学部同窓会長賞の受賞者

2018年度卒業式は、本年3月22日におこなわれました。経済学科376名、商学科257名、現代応用経済学科164名、合計797名の卒業生が誕生しました。

経済学部同窓会は、在学中勉学に励み、人物にも優れた9名に賞状と記念品(万年筆)を授与しました。受賞の誇りと自信をもって、今後は社会人として活躍されることを期待しています。

経済学科:	松嶋 多寿久	三上 航	鄧 霞
商学科 :	坪内 沙耶	本間 柁之	村瀬 望
現代応用経済学科:	南 康太	久保 友亮	尾池 一樹



経済学科:松嶋 多寿久さん



経済学科:三上 航さん



経済学科:鄧 霞さん



商学科:坪内 沙耶さん



商学科:村瀬 望さん



現代応用経済学科:南 康太さん



現代応用経済学科:久保 友亮さん



現代応用経済学科:尾池 一樹さん

2018年度 駒澤大学経済学部学生奨学論文について

経済学部の学生の日頃の研究成果を表彰する「学生奨学論文」制度は、2018年度で第7回を迎えました。2018年度の受賞者と論文タイトルは下記の通りです。

【審査結果】 ※応募総数15編

1. 特選 該当なし
2. 入選 該当なし
3. 佳作(9編)
 - ①大川恵士「高度経済成長と公害問題—横浜方式を中心に—」
 - ②鈴木桃花・奥山和澄「ロボアドバイザーで利益相反は解決できるか」
 - ③平出青空「健康寿命と労働力—地域データを用いた分析—」
 - ④小川健太・朱凌楓「中国小売業におけるオンライン企業と実店舗企業のオムニチャネル化をめぐる闘い」
 - ⑤田中勇也「IR(統合型リゾート)の批判的検証—1980年代のリゾート開発との比較を通じて—」
 - ⑥近藤摩紀「デンソー事件にみるタックスヘイブン—合法と違法の境界線—」
 - ⑦麻生暁大「中世フィレンツェの社会的結合—13~15世紀の兄弟会の変容を通して—」
 - ⑧塩本夏美「日本における女性差別を歴史的視点で考える—女性差別はなぜなくなるのか—」
 - ⑨高島有美・高翔・樋口初音・由利陽良「韓国のキャンドル革命について—「パラダイムシフト」の意味を考える—」

[著書紹介]

駒澤大学名誉教授 谷敷正光著

『戦前期綿糸紡績業における女学校の成立』



戦前期日本資本主義の発展のもとでの女子教育の在り方の研究が大いに進められているが、「工場法」以降や工場内に設置された教育施設に関する女子教育に関する考察が顧みられなかった、と研究史を整理している。本書は、この認識もと、戦前日本資本主義を牽引した近代的機械制紡績業における女子労働者育成機関としての企業内における女学校成立の経緯を丹念に解明した労作である。会社史等も広く活用しつ

つ、女子労働者の教育機関として、自立して発展し、一定の社会的役割を果たした「企業内女学校」成立史考察の集大成である。

本書は、第Ⅰ部・綿紡績業の黎明期、第Ⅱ部・綿紡績業の発展期、第Ⅲ部・大正期の工場労働者最低年齢法制定以降に時期区分し、女子労働者の教育・育成の在り方の変化を紡績業の技術発展と労働市場の在り方そして、国家の教育法制度の変化の中に位置づけている。

女子労働者保護の面からは、法的にも制度運用面でも不十分な側面を持つものであるとはいえ、企業内女子教育施設で教育を受けた女子労働者が戦前期日本紡績業の発展を支えたのは歴史的事実である。工場内に女学校を設置し、多くの紡績女子労働者が就学の機会を得て体系的な教育を受ける機会を与えられた意義は大きかったと著者は評価する。(2015年10月20日発行 創成社、2,700円、税別)

執筆者 昭和51年大学院経済学研究科修了・柚木駿一

同窓会事務局からのお知らせ

* 同窓会組織の強化にご協力ください

同級生、ゼミやサークルの仲間、地域のお知り合いで「経済学部同窓会」に加入していない方がおられましたらご紹介ください。未加入の方に事務局から入会案内をお送りします。

* 「こまざわ経済通信」の原稿募集

同窓会報の充実のため原稿を募集しています。積極的なご投稿をお願いいたします。

- ・論 題：自由
- ・字 数：800字以内
- ・送付先：駒澤大学経済学部同窓会事務局（下記）
原稿の採否は事務局にご一任ください。

* 役員を募集しています

ボランティアで同窓会の仕事をしていただける方を募集しています。

軽い仕事なのでご負担になることはありません。仲間と楽しみながら、同窓会と経済学部の発展ために貢献できます。

有志の方は事務局までご連絡ください。

* facebookの公開グループを立ち上げました

経済学部同窓会の公開グループ(<https://www.facebook.com/groups/komakei.obog/>)を立ち上げました。同窓生の情報発信や情報交換の場としてご活用ください。

経済学部同窓会事務局（経済学部事務室内）

〒154-8525 東京都世田谷区駒沢1-23-1

電話：03-3418-9343